



シラバス

令和 7 年度 (2025 年度)

2 年次 履修科目

指定保育士養成施設 こども學舎

シラバス目次

社会的養護 I B.....	1	保育実習指導 I B	18
子ども家庭支援の心理学.....	2	保育実践演習	19
保育の計画と評価 B	4	音楽.....	21
保育のシゴト B.....	5	造形.....	22
文章表現 II	6	体育（実技）	23
英語.....	7	保育実習指導 II	25
子どもの理解と援助	9	保育実習指導Ⅲ.....	26
保育内容演習（ことば）	10	社会福祉施設経営と管理	27
保育内容演習（人間関係）	11	メンタルヘルス	28
保育内容演習（健康）	12	キャリアプランニング II	29
保育内容の理解と方法（言語表現）	13	療育総論.....	30
乳児保育 II	14	情報処理応用	31
子どもの健康と安全	15	幼児体育 II	32
社会的養護 II	16	ピアノ B.....	33
子育て支援.....	17		

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
社会的養護 I B			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 社会的養護について、広い視点から理解を深めるとともに、専門性を高めていく。 社会的マイノリティ、権利、生命倫理などにもふれる。 ① ディスカッションを交えながらの事例検討 ② 個別支援計画の作成やソーシャルワーク実践の流れについて ③ 社会問題について福祉の視点で考える ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります					
(学習目標) 多様性を受け入れ、グローバルな視点で考え、個々に寄り添った関わりかたを身につける。 広い視点で福祉を捉え、理解する。 ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります					
評価方法・基準					
発言力、協調性、客観性、グローバル視点、誠実性、レポート、テストなど ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります					
履修上の注意点					
知識や技能の習得は必要な要素だが、社会的立場において「子どもと、個の人間として関わる ことができるか」について個々に模索し、正解のない問題に自分なりの答えを見出す力をつける。 いろいろな立場の人の生き方を理解する。					
教科書					
社会的養護 (1) (図解で学ぶ保育)・児童の福祉を支える演習社会的養護Ⅱ 萌文書林					
参考書					
特になし					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	福祉とは① (社会的マイノリティ)
3回	福祉とは① (欲求)
4回	ソーシャルワーク① (相談支援)
5回	ソーシャルワーク② (個別支援計画)
6回	ソーシャルワーク③ (マクロ、メゾ、ミクロ)
7回	事例検討① (例：いじめについてなど)
8回	事例検討② (例：性や差別についてなど)
9回	生命倫理・人権・権利について
10回	事例検討orテストor レポート
11回	事例検討orテストor レポート
12回	事例検討orテストor レポートのふりかえり
13回	社会的養護まとめ (ふりかえり)
14回	ボランティア論
15回	保育士を目指す皆さんへ (自己覚知、自己開示)

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子ども家庭支援の心理学			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 子どもの遊び及び生活の実態に即した子どもの生涯発達の意義を理解する。 2. 家庭、幼稚園・保育園、地域等の子どもを取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義を理解する。 3. 個と集団の関係を深めるための保育者の基本的な態度を理解している。 4. 保護者の心情及び基本的な対応の方法を理解している。					
(学習目標)					
生涯発達の意味を理解し、「子ども」の発達と「親」としての発達の観点から基本的知識を体得していく。発達の各段階について理解し、教育や保育における具体的な働きかけとその留意点について説明できる。子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身につける。					
評価方法・基準					
授業への参加・貢献度（30％）、授業内ワーク（30％）、試験（40％）					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
『子どもとかかわる人のための心理学』沼山 博・三浦主博 編著 萌文書林					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション：どのような家庭支援を行いたいのか
2回	【発達心理学】 発達の捉え方①
3回	発達の捉え方①
4回	環境とアタッチメント①
5回	環境とアタッチメント②
6回	子どもにとっての家庭
7回	【家庭支援とコミュニケーション】 家庭支援に必要な対話スキル①
8回	家庭支援に必要な対話スキル②
9回	家庭支援に必要な対話スキル③
10回	家庭支援に必要な対話スキル④
11回	家庭支援に必要な対話スキル⑤
12回	家庭支援に必要な対話スキル⑥
13回	【発達障がい理解と支援】 自閉スペクトラム症についての概要
14回	自閉スペクトラム症を抱えた子どもの支援
15回	自閉スペクトラム症の子どもを持つ家庭の支援

	授 業 内 容
16回	ADHDについての概要
17回	ADHDを抱えた子どもの支援
18回	ADHDの子どもの持つ家庭の支援
19回	【子どもにかかわる大人のこころ】 親の育児不安・ストレス
20回	親も子どもと共に育つ
21回	子どものこころの健康のために保護者を支える
22回	【社会と家族】 社会システムとしての家族
23回	家族にもライフサイクルがある
24回	地域機関との連携
25回	【虐待の予防とケア】 虐待についての概要
26回	被虐待児への支援
27回	虐待加害家庭への支援
28回	科目修了試験
29回	振り返り
30回	保育者として子育て家庭を支える

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育の計画と評価B			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 1. 保育の計画と評価Aを踏まえ、部分実習、完全実習の指導案作成をする。 2. 実習で実践できるものを自分で考え、実践の準備をする。 3. 観察・改善のポイントを知る。					
(学習目標) 1. 部分実習、完全実習の指導案を作成できるようになる。 2. 保育で実践できるものを1つでも多く、自分で考える力をつける。 3. ねらいを踏まえて、計画、実践、反省、改善を行い、子どもの姿を捉える姿勢を養う。					
評価方法・基準					
出席状況、授業に参加する学習態度50% ・ 指導案50% 【指導案の完成度ではなく、以下をを総合的に評価する ※以下参照】 1 指導案作成の基礎練習を積極的に行っている。 2 素直に助言を取り入れ、柔軟に修正改善ができる。 3 教材研究を自分で行ない、指導案を自分の言葉で書ける。					
履修上の注意点					
・ 保育を研究する意識を高め、主体的に取り組みましょう。 ・ 個人ワークが中心の授業です。自己課題を明確にし、前向きな姿勢で臨んで下さい。 ・ 内容の深まり具合によって授業内容が前後する。					
教科書					
教育課程・保育の計画と評価(萌文書林)					
参考書					
記入に役立つ 保育が分かる実習の記録と指導案 (ひかりのくに) 保育所保育指針					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 保育実践と評価～PDCAサイクルの確認
2回	指導計画の作成方法の確認
3回	指導案作成の練習 ①
4回	指導案作成の練習 ②
5回	指導案作成の練習 ③
6回	指導案作成の練習 ④
7回	指導案作成(完成した人は確認・2枚目を書く)①
8回	指導案作成(完成した人は確認・2枚目を書く)②
9回	指導案作成(完成した人は確認・2枚目を書く)③
10回	指導案作成の課題を自己評価する
11回	指導案作成(完成した人は確認・2枚目～)④
12回	指導案作成(完成した人は確認・2枚目～)⑤
13回	模擬保育① 自分の指導案の内容を保育士役として実践練習(希望者)
14回	模擬保育② 自分の指導案の内容を保育士役として実践練習(希望者)
15回	模擬保育③ 自分の指導案の内容を保育士役として実践練習(希望者)

令和7年度シラバス

科目名		単位		担当教員名	
保育のシゴトB		4単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 保育職を幅広く多角的な視点から捉えられるような能力を養う。 また、子どもを取り巻く地域社会や子育て環境に目を向け、より実践的な取り組みを企画・運営し、保育実践に必要な知識や技能を習得する。					
(学習目標) 社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、社会的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
適宜、参考資料を配布する。					

[illegible]

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
文章表現Ⅱ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 本科目では、保育士にとって必要となる対外文章作成スキルの習得を目的とする。保育士は、日々の保育活動の中で、連絡帳、保育記録、園だよりなど、さまざまな対外文章を作成する必要がある。対外文章作成のスキルを身につけることで、ステークホルダーとのコミュニケーションを円滑にすることを目指す。					
(学習目標) ・対外文章作成に必要な知識の習得と実践 ・保育士が作成する対外書類の知識の習得と実践					
評価方法・基準					
・出席等の授業姿勢 ・演習レポート（期限内に提出）					
履修上の注意点					
・書く努力をすること					
教科書					
・文章の書き方&文例集（ナツメ社）					
参考書					

	授 業 内 容
1回	文章表現能力とは
2回	文章作成・構成の知識
3回	実践演習①（文章構成）
4回	フィードバック
5回	ビジネス文書の知識
6回	実践演習②（行事案内）
7回	フィードバック
8回	連絡帳の知識
9回	実践演習③（連絡帳）
10回	フィードバック
11回	園だよりの知識
12回	実践演習④
13回	フィードバック
14回	要録の知識
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
英語			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) この授業では、国際化社会において保育の現場で求められる実践的な英語力をつけていきます。教材には、園児や保護者とのダイアログ（会話文）、コミック、洋楽などを使用し、英語の口語表現を学びます。 また、日本と外国の文化・考え方・マナーの違いなども授業内で紹介し、外国人の子どもや保護者と接する際に気を付けるべき点なども学んでいきます。					
(学習目標) 1. 子どもたちに英語を教えられる基礎英語力をつける。 2. 外国人の保護者と適切にコミュニケーションがとれる英会話力をつける。 3. 日本と外国の文化・考え方・マナーの違いを理解し、国際的感覚を身に着ける。					
評価方法・基準					
・定期試験50% ・平常点（授業への意欲・参加）30% ・課題提出 20%					
履修上の注意点					
授業に毎回持参する必要はありませんが、予習・復習をする際に便利なので、英和辞書を準備して下さい。電子辞書、紙の辞書、どちらでも構いません。					
教科書					
プリントを使用します。					
参考書					
授業内で提示します。					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス（授業内容の紹介、英語の学習方法について）
2回	コミック・ジョークで口語表現の学習 1
3回	英語の発音法則について、洋楽で発音練習 1
4回	会話練習（自己紹介の際の表現）
5回	コミック・ジョークで口語表現の学習 2
6回	会話練習（登園の際の表現）、洋楽で発音練習 2
7回	会話練習（歌・音楽・読み聞かせの時間の表現）
8回	コミック・ジョークで口語表現の学習 3
9回	会話練習（お絵描き・工作の時間の表現）、洋楽で発音練習 3
10回	会話表現（外遊びの際の表現 1）
11回	コミック・ジョークで口語表現の学習 4
12回	会話表現（外遊びの際の表現 2）、洋楽で発音練習 4
13回	会話表現（昼食の際の表現）
14回	コミック・ジョークで口語表現の学習 5
15回	会話表現（着替え・おむつ交換の際に使う表現）、洋楽で発音練習 5

	授 業 内 容
16回	会話表現（トイレの際に使う表現、お昼寝の時間の表現）
17回	コミック・ジョークで口語表現の学習 6
18回	会話表現（ケガ・病気に対処する際の表現）、洋楽で発音練習 6
19回	会話表現（けんか・トラブル対処の際の表現）
20回	コミック・ジョークで口語表現の学習 7
21回	会話表現（お迎えの時間の表現）、洋楽で発音練習 7
22回	会話表現（保護者との会話表現 1）
23回	コミック・ジョークで口語表現の学習 8
24回	会話表現（保護者との会話表現 2）、洋楽で発音練習 8
25回	会話表現（保護者との会話表現 3）
26回	コミック・ジョークで口語表現の学習 9
27回	会話表現（保護者との会話表現 4、進級・卒園の際の表現）、洋楽で発音練習 9
28回	復習とまとめ 1
29回	復習とまとめ 2
30回	定期試験

令和7年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
子どもの理解と援助		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) ・「物事を深く考えていない」「自己中心的な存在」など否定的な見方をされることが多い子どもたちが、「果たして本当にそうなのだろうか？」子どもの気持ちに寄り添うことの大切さを改めて知る。 ・現場の子どもたちのエピソードや現場のDVD（動画）をもとに考える。					
(学習目標) 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
評価方法・基準					
授業態度（60％＝4％×15回）レポート（40％＝10％×4回）で評価					
履修上の注意点					
教科書					
保育の瞬間 柴田 愛子：学研					
参考書					
こどものみかた春夏秋冬 柴田 愛子：福音館書店 子どもたちのミーティング 柴田 愛子・青山 誠共著：りんごの木 保育でつむぐ子どもと親のいい関係 井桁 容子：小学館 新しい保育講座3 子ども理解と援助：ミネルヴァ書房 保育の「ヘンな文化」そのままでもいいんですか！？ 柴田 愛子・大豆生田啓彦：小学館 育てたように子は育つ 相田みつを・佐々木正美：小学館文庫					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション（講義の方向性を再認識する） 保育原理の「子ども理解」を振り返る
2回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？①
3回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！①（DVD視聴）【レポート①】
4回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？②
5回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？③
6回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！②（DVD視聴）【レポート②】
7回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？④
8回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？⑤
9回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！③（DVD視聴）【レポート③】
10回	子どもの気持ちを知った保育者の対応は？①
11回	子どもの気持ちを知った保育者の対応は？②
12回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！④（DVD視聴）【レポート④】
13回	子どもをより知るための方法 （よく観る・メモをとる・振り返る・対話・連絡帳やクラス便りで共有）
14回	特別な配慮を要する子どもを通じて
15回	まとめ（振り返り）

令和7年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育内容演習（ことば）		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) ※決まり次第別途周知いたします。					
(学習目標)					
評価方法・基準					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	
2回	
3回	
4回	
5回	
6回	
7回	
8回	
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（人間関係）			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
（授業のテーマ） 保育所保育指針に示された保育所保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育における子ども、保護者、地域社会を含めた「人間関係」についての知識や援助方法を習得する。					
（学習目標） 保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、乳幼児における「人と関わる力」の育ちの過程を理解する。また、保護者との人間関係、保育者同士の人間関係の重要性を理解する。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性、試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
保育内容「人間関係」と指導法（中央法規）					
参考書					
適宜、参考資料を配布します。 保育所保育指針解説 平成29年告示（フレーベル館）					

	授 業 内 容
1回	保育の基本 領域「人間関係」
2回	0歳以上3歳未満児の子ども人間関係の発達
3回	3歳以上児の子ども人間関係の発達
4回	乳幼児の子どもの人と関わる力を育む保育者の関わり
5回	自立心を育む
6回	道徳性・規範意識の芽生え
7回	協同して物事に取り組む
8回	社会生活とのかかわり
9回	遊びと人間関係の発達
10回	人と関わる力を育む指導計画の作成
11回	特別な配慮を必要とする子どもの保育
12回	子どもの育ちを支える保育者の人間関係
13回	ICTを活用した保育
14回	人間関係における今日的課題
15回	試験

令和7年度シラバス

科目名		単位	担当教員名	
保育内容演習（健康）		1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態
				演習
科目概要				
（授業のテーマ） 乳児期における3つの視点（健やかに伸び伸びと育つ・身近な人と気持ちを通じ合う・身近なものに関わり感性が育つ）と、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を通して捉え、子どもの発達に対する理解を深めながら、「保育内容健康」「健康および安全」について具体的に理解することをねらいとしている。 養護と教育を一体的に捉えた保育内容、家庭との連携を通して、子ども一人ひとりの「心」「身体」「命」を守っていくために必要な、具体的な知識・技術・判断力を習得する。				
（学習目標） (1)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境構成、教材の活用と工夫、保育過程とその実際について理解し、実践的な力の基礎を習得する。 (2)子どもの育ちの連続性について学び、家庭との連携の中で育つ子どもの姿を理解する。 (3)実践の場で求められる寄り添いの姿勢と発信する力を習得する。				
評価方法・基準				
授業態度（積極性、課題意識、主体性、発信力）・出席状況・提出物・発表・レポート・グループワークなどを総体的に評価します。 到達度だけではなくそこに至る過程において、自分の想いを表現する、他者の考えに耳を傾けるなど、意欲・興味・関心・他者との協調・協働という姿勢を重視します。				
履修上の注意点				
乳幼児期の子どもたちに育って欲しいと願う姿でもある、「主体的に考え、積極的に行動する」姿を皆さんにも期待しています。この場所で出会えた皆さんと、自身が抱える悩みや課題点についても一緒に考えていけたらと思っています。言葉に想いをのせて語り伝えられる保育者を目指してほしいと願っています。 進行状況に応じて授業内容で変更が生じる場合は、事前にお知らせします。				
教科書				
無藤隆（監修）『事例で学ぶ保育内容 領域健康』（2020）萌文書林				
参考書				
・汐見稔幸（監修）『イラストたっぷりやさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』（2020）学研 ・東社協保育士会保健部会『改訂版保育園の保健のしごと』（2019）赤ちゃん和妈妈社 <その他必要に応じて、授業内で資料を配布します>				

	授 業 内 容
1回	はじめに・幼児教育の基本 ～保育者を目指す皆さんへ～
2回	子どもの育ちと領域「健康」保育所保育指針改定のポイント （乳児・養護・健康・災害への備え・園内研修の充実）
3回	領域「健康」と他領域のとの関係 （総合的な保育・養護と教育）
4回	年齢別にみる身体発達と基本的生活習慣 （乳児・0歳児、1～2歳児・特別な配慮を要する個別の支援）
5回	年齢別にみる身体発達と基本的生活習慣 （幼児・3～5歳児・特別な配慮を要する個別の支援）
6回	子どもの健康と遊び （興味を引き出す環境構成・指導計画と評価）
7回	保育現場における健康と安全 （安全対策・危機管理・事故対応・応急処置）
8回	子どもを取り巻く今日的課題 （虐待・生活リズムの確立・保育時間の長時間化）
9回	家庭との連携・育ちの連続性 保育者に求められる家庭支援の現状と課題
10回	保健だより作成へ向けた課題・テーマの整理（グループワーク）
11回	保健だより作成（グループワーク）
12回	保健だより作成（グループワーク）
13回	保健だよりグループ発表
14回	子どもを取り巻く今日的課題（事例検討）
15回	まとめ・個別最終レポート作成

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（言語表現）			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
（授業のテーマ） ①表現活動に係る児童文化財等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的な展開のための技術を習得する。 ②児童文化財についての知識を学ぶ。 ③知識を基に児童文化教材を作成する。					
（学習目標） 子どもの発達と児童文化財等に関する知識と技術を習得する。 さまざまな教材の特性を理解し、活用することが出来る。 学んだ知識を活用し、保育園場で求められる児童文化教材を作成する。					
評価方法・基準					
作成した作品及びその発表の点数を重んじるが、出席状況・授業態度・積極性も含め、総合的に評価する。					
履修上の注意点					
児童文化教材の作成については、第13・14・15回において自作品の発表（試験）を行うので、それまでに完成させる。					
教科書					
保育者のための言語表現の技術（萌文書林）					
参考書					
適宜、参考資料を配布します。 保育所保育指針解説 平成29年告示（フレーベル館）					

	授 業 内 容
1回	①オリエンテーション ②実践編Ⅰ．おはなし ③実践編Ⅰ．おはなし②
2回	
3回	児童文化教材の作成①
4回	①Ⅱ．絵本 ②Ⅱ．絵本②
5回	
6回	児童文化教材の作成②
7回	①Ⅱ．絵本③ ②Ⅱ．絵本④
8回	
9回	児童文化教材の作成③
10回	①Ⅲ紙芝居・Ⅳパネルシアター ②Ⅴペープサート・Ⅵ人形劇・その他
11回	
12回	児童文化教材の作成④
13回	発表（試験）
14回	発表（試験）
15回	発表（試験）

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
乳児保育Ⅱ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) ・乳児保育Ⅰで学んだことをもとに、3歳未満児の発達および保育について理解を深める。 ・養護と教育の一体、3つの視点、5領域を踏まえた保育内容について研究をする。 ・演習を通して乳児の生活・遊び・活動の援助について検討する。					
(学習目標) 1 3歳未満児の発達の過程や特性を踏まえた環境・援助について説明ができる。 2 乳児の生活や遊びにおいて、養護及び教育の一体性を踏まえた保育内容を検討する。 3 保育研究を通して、様々な視点、方法があることを知り、柔軟に取り入れる。					
評価方法・基準					
意欲・態度・提出物 (50%) 研究保育の取り組み (50%)					
履修上の注意点					
・実践ワークが中心です。 ・乳児保育Ⅰの復習を自ら行い。授業では具体的な演習で考察力をつけましょう。 ・他者の視点から学び、自分の視野を広げ、柔軟性を養いましょう。 ・意見交換、保育研究、発表を通して、保育者間の連携、協働のスキルを磨いて下さい。					
教科書					
新基本保育シリーズ15 乳児保育Ⅰ・Ⅱ (中央法規)					
参考書					
保育所保育指針 他					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 0歳児クラス 発達・生活と遊び
2回	応答的な関わり① わらべうた・手遊び
3回	応答的な関わり② 援助・環境構成
4回	1歳児クラス 発達・生活と遊び
5回	1歳児の活動と援助① 製作
6回	1歳児の活動と援助② 製作
7回	2歳児クラス 発達・生活と遊び
8回	2歳児の活動と援助① グループワーク
9回	2歳児の活動と援助② グループワーク
10回	乳児の保育研究～ テーマを選択
11回	保育研究～準備①
12回	保育研究～準備②
13回	発表①
14回	発表②
15回	発表③ ～ ふりかえり

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの健康と安全			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育保健において、子どもの健康と安全は最重要課題であると考えます。子どもの健康と安全を守るために必要な保育環境についてわかるとともに、保育施設内外での事件事故を防ぐための知識と技能について身に付け、保育現場で生かせる力を身に付けることをテーマとします。					
(学習目標) ・保健的観点を踏まえた保育環境および援助についてわかる ・保育における健康および安全の管理についてわかる ・子どもの体調不良などに対する適切な対応についてわかる ・子どもがよくかかる感染症の対策についてわかる ・保育で必要な保健的対応についてわかる ・健康および安全の管理の実施体制についてわかる					
評価方法・基準					
授業への参加姿勢・出欠 20％ テスト80％					
履修上の注意点					
授業は教科書に沿って進めるが、進度によっては変更する可能性あり。					
教科書					
『子どもの健康と安全演習ノート』 編著 小林美由紀 診断と治療社					
参考書					
随時提示する					

	授 業 内 容	
1回	ガイダンス 第2章 保育における健康および安全の管理について知ろう ① 衛生管理	
2回	② 事故防止および安全対策	
3回	③ 危機管理と災害への備え	
4回	第3章子どもの体調不良などに対する適切な対応を知ろう ① 体調不良や傷害が発生した場合の対応と救急処置	ゲストティーチャー 
5回	② 救急処置および心肺蘇生法（1）	
6回	② 救急処置および心肺蘇生法（2）	
7回	第3章子どもの体調不良などに対する適切な対応を知ろう ① 乳児の心肺蘇生法	
8回	② 子どもの誤嚥時、窒息時の対応	
9回	まとめ	
10回	第5章 保育で必要な保健的対応を知ろう ① アレルギー疾患を持つ子どもの養護	
11回	② エピペンの使用方法（1）	
12回	② エピペンの使用方法（2）	
13回	まとめ・テスト	
14回	第6章 健康および安全の管理の実施体制を知ろう（1）	
15回		

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
社会的養護Ⅱ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 施設養護と家庭養護の特徴を理解し、社会的養護における計画、記録、自己評価の実際を学ぶ。また、社会的養護における相談援助の方法や技術を理解する。 授業は現場の保育に応用できるように子どもの力を引き出す遊びの紹介や演習する機会を多く設け具体的な 授業展開を図る。					
(学習目標) ① 社会的養護の役割について理解している ② 施設における保護者との連携について考えることができる ③ 個々の子どもの状態に応じた遊びが実践できる					
評価方法・基準					
講義中に示す小課題 30% 講義・演習への積極性 10% 最終レポート 60%					
履修上の注意点					
子どもにかかわる専門職を目指すにあたり、社会的養護にかんする知識はどの立場においても重要です。興味関心を持って取り組んでください。					
教科書					
社会的養護Ⅰ―「新しい社会的養育ビジョン」の理解に向けて― 鈴木幸雄・梶原敦・美馬正和 (同文書院)					
参考書					
演習・保育と社会的養護実践―社会的養護Ⅱ― 橋本好市・原田旬哉 (みらい) 社会的養護内容 伊藤嘉余子・小池由佳編著 (ミネルヴァ書房)					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス 児童虐待
2回	社会的養護の基本理念と原理
3回	児童福祉施設における保育士の役割
4回	施設における支援の実際
5回	施設における支援の段階
6回	虐待を受けた子どもへの対応
7回	子どもの権利① 子どもの権利条約
8回	子どもの権利②
9回	社会的養護の動向と新しい社会的養育ビジョン 乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設の特性と実際
10回	社会的養護にかかわる相談支援 (児童虐待の実際と地域の家庭への支援)
11回	社会的養護にかかわる相談支援 (事例から考える)
12回	社会的養護にかかわる相談支援 (マッピング技法)
13回	児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設の特性と実際
14回	被措置児童等虐待
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子育て支援			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育所保育指針に示されている子育て支援を理解すると共に、必要な子育て知識や虐待の予防、保護者の子育て上の心配や悩みの解決への支援の仕方、保護者支援のために必要な保育技術や制度・政策、保育者として知っておくべきことを、グループワークやロールプレイング等の演習を通して学ぶ。 また諸外国の子育て支援を学ぶことで今度の子育て支援に生かしていけるようになる。					
(学習目標) ① 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。子育て支援の現状について述べる事ができる ② 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
評価方法・基準					
ミニレポート 50 点 (10点×5回) 授業中のグループワーク等の参加姿勢30点 提出物20点					
履修上の注意点					
演習を中心に行うため、話し合い、グループワークへの積極的な参加を求める。 グループワーク等でIT 機器（PC、タブレット、スマートフォン）の利用をすることがある。					
教科書					
毎時間プリント配布するため、教科書は不要					
参考書					
必要があれば適宜紹介をしていく					

	授 業 内 容
1回	子育て支援とは
2回	子育て環境の現状
3回	日本の子育て支援制度の成り立ち
4回	日本の子育て支援制度現在
5回	子育て支援におけるおもちゃや絵本の必要性について
6回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク①
7回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク②
8回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク③
9回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク④
10回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク⑤
11回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 発表
12回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 発表
13回	地域資源と関係機関 グループワーク
14回	地域資源と関係機関 グループワーク
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導 I B			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法、実習施設の理解を図り、保育の理論と実践の関係について習熟し、実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。また、実習後の自己評価を行い今後の課題を考察する。					
(学習目標) 保育実習の意義・目的・内容といった実習の全体的な枠組みを理解し、実習前にすべき事項、指導案・実習記録の作成等の知識と技術を身につけることを目標とする。また、実習後の自己評価により、今後の課題を明確にする。					
評価方法・基準					
出席状況、授業態度、積極性を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
これからの時代の保育者養成・実習ガイド 中央法規 実習の記録と指導案 ひかりのくに					
参考書					

授 業 内 容	
1回	実習オリエンテーションに向けて 実習日誌 園の概要・目標 指導案
2回	
3回	
4回	保育所実習に向けて 課題設定等準備①
5回	
6回	
7回	保育所実習に向けて 課題設定等準備②
8回	
9回	
10回	保育実習 I 事後指導（保育園実習振り返り）
11回	施設実習に向けて 課題設定等準備
12回	
13回	保育実習 I 実習事後指導（施設実習の振り返り）
14回	
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実践演習			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育士としての現場活動の探究による課題の発見とその解決法を主題とする 1) 保育士として求められる技能の理論、その習得を確認し活用する演習 2) 保育を取りまく環境、技能等についての問題を探究し、実践的に形にする 3) 保育に関する制度、社会環境等について課題を探り、課題解決のための手段を考え、討議によって探求と理解を深める					
(学習目標) ◎ 個人での取り組み、共同作業（グループワーク）の積極的な活動を行うこととする ◎ 課題や目標に対し、保育理論に基づいた考察とその実践例を制作し結果を発表する。また、それについての意見を述べ（討議）各自の考察と理解を深める。 ◎ 発表用資料、配布用レジュメ等をしっかりと作成できるようにする。					
評価方法・基準					
1. 授業に取り組む姿勢及び態度（30%） 2. 協力的姿勢（30%） 3. 発表（40%）					
履修上の注意点					
一つの分野で40 分間の発表をしてもらいます。時間内に収まるよう、各分野で協力し準備をしっかりと行う必要があります。発表に対する質疑等は止揚を目指すものであり、優劣を競うものではありません。個人だけでなく、グループワークの場合もあるので誰かに依存するのではなく、各自が積極的に取り組む必要があります。					
教科書					
使用しない（必要のある場合は授業内で紹介する）					
参考書					
二年間の学びを集大成できるよう、これまで使用したテキスト等を有効活用することがのぞましい					

	授 業 内 容
1回	授業趣旨説明とガイダンス等。
2回	〃
3回	取組内容に基づく各担当教員からの説明等。
4回	作業活動
5回	〃
6回	〃
7回	〃
8回	〃
9回	〃
10回	〃
11回	〃
12回	〃
13回	〃
14回	〃
15回	〃

	授 業 内 容
16回	作業分担に基づく各種作業 発表前の最終確認作業（授業担当者による添削等の相談）
17回	〃
18回	〃
19回	〃
20回	〃
21回	〃
22回	〃
23回	〃
24回	〃
25回	〃
26回	〃
27回	〃
28回	成果発表
29回	〃
30回	〃

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
音楽			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 1. 保育士として必要とされる音楽理論（楽典）を習得する。 2. へ長調・3 拍子の曲「ぞうさん」を弾いてみる。					
(学習目標) 1. 課題曲「おかえりのうた」の前奏でペダルを使ってみる。 2. リズム 連続の箇所は、リズムがいい加減にならないよう気をつける。					
評価方法・基準					
・ ♩ 連続が正しく弾けているか、全体的に軽やかに弾けているか、指使いは正しいか等 ・ 弾き歌いも加味する					
履修上の注意点					
・ ♩ のリズム連続の練習の仕方を学び、そのうえで、♩ 連続を正しく保てるようリピート練習することが望ましい ・ 授業内容については、予定を変更することがある					
教科書					
「大人のための音楽ワーク」 紙鍵盤、一つにまとめた五線紙（1 枚）、和音コードネーム、練習曲					
参考書					

	授 業 内 容
1回	テキスト⑤章 記号と楽語
2回	課題曲「おかえりのうた」右手の ♩ リズムの弾き方
3回	練習曲「ぞうさん」三拍子、へ長調の説明
4回	テキスト⑥章 音程の種類
5回	「おかえりのうた」右手と左手
6回	「ぞうさん」
7回	テキスト⑦章 音階
8回	「おかえりのうた」ピアノで個人レッスン
9回	残り時間「ぞうさん」
10回	テキスト⑧章 和音
11回	「おかえりのうた」ピアノで個人レッスン
12回	
13回	音楽理論のテスト
14回	課題曲「おかえりのうた」弾き歌い実技テスト
15回	残り時間「大きなくりの木の下で」

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
造形			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 造形表現に関する保育者としての実践力を高めるとともに援助の拠り所となる基本的な考え方を把握する。 幼児の造形表現に関する実践力を高めるために体験的な演習を実施する。					
(学習目標) 【実践的指導力】 幼児の造形表現に関する実践的指導力を高める。 【基本的な考え方】 実践的指導力の拠り所となる基本的な考え方を把握する。					
評価方法・基準					
授業参加度・出席態度・制作過程・制作物・ポートフォリオをみて総合的に評価する。					
履修上の注意点					
はさみ、のり、カッター、ホッチキスなど工作に必要なものを各自用意する。 制作過程や作品は必ず写真で記録をする。					
教科書					
なし					
参考書					
「新造形表現 実技編」編著 花簾實・岡田愨吾、「美術教育概論」日本文教出版（改訂版）、「GIFTS FROM THE CHILDREN 子どもたちからの贈りもの—レジャ・エミリアの哲学に基づく保育実践」秋田喜代美 著（萌文書林）、「ハーバード・プロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践」池内慈朗 著（東信堂）					

	授 業 内 容
1回	「オリエンテーション」子どもの造形表現と素材や環境について。
2回	「身近なものからの展開1」紙を使った活動と遊びについて。
3回	「身近なものからの展開2」紙を使った活動の展開を考察する。
4回	「造形遊びについて」過程を大切にすることについて。
5回	「自分を見つける造形活動1」テーマをもとに廃材を使った表現を検討する。
6回	「自分を見つける造形活動2」テーマをもとに廃材を使った制作をする。
7回	「自分を見つける造形活動3」テーマにあった表現の工夫をする。
8回	「自分を見つける造形活動の鑑賞と考察1」成果発表をする。
9回	「自分を見つける造形活動の鑑賞と考察2」意見交換と活動のまとめをする。
10回	「動きが生まれる表現について」紙を使った動きの考察をする。
11回	「気持ちを伝える形1」テーマにあった素材の選択と制作をする。
12回	「気持ちを伝える形2」テーマにあった形の検討と制作をする。
13回	「気持ちを伝える形3」テーマにあった表現の工夫をする。
14回	「記録について1」子どもの造形表現に関わる大人の役割について。ポートフォリオの作成を通して活動を振り返る。
15回	「記録について2」出来事を共有するポートフォリオの意義について。

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
体育（実技）			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	実技
科目概要					
(授業のテーマ) 子どもの運動能力や体力の基礎となる力を養うために必要な運動あそびの基本について理解を深める。また、自らのからだを素材とする表現あそび、各種遊具を使った運動あそび等を楽しく実践するための指導法、運動あそびにおける安全管理や環境設定などについても学びます。					
(学習目標) ・幼児期に必要な基本運動を理解することができる。 ・子どもの発育・発達に応じた運動あそび・表現あそびの展開方法について理解する。 ・運動あそびを楽しく実践する援助法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。					
評価方法・基準					
実技テスト、レポート提出などの課題結果、および出席状況、授業に参加する学習態度、積極性を踏まえ、総合的に評価する。					
履修上の注意点					
・実技です。運動に適した動きやすい服装、髪型、靴で参加のこと。 ・水分補給用の飲み物、筆記具を持参する。 ・準備、片付けは協力して行い、遊具の安全管理や環境設定に必要な知識の修得も図る。					
教科書					
なし					
参考書					
なし					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション、授業内容及び進め方について
2回	からだを使って遊ぶ1、模倣歩き
3回	からだを使って遊ぶ2、全身運動
4回	鬼遊びの内容と指導法について①、子どもの様子を知る
5回	鬼遊びの内容と指導法について②、色々な鬼遊びを経験する
6回	鬼遊びの内容と指導法について③、鬼遊びを考案し発表する
7回	色々なマット運動種目の自己の技術について確認
8回	マットを用いた遊びの安全管理・補助法について①
9回	マットを用いた遊びの安全管理・補助法について②
10回	鉄棒種目の自己の技術について確認
11回	鉄棒を用いた遊びの安全管理・補助法について①
12回	鉄棒を用いた遊びの安全管理・補助法について②
13回	ここまで行った補助法・幫助法の修得確認を実施①
14回	ここまで行った補助法・幫助法の修得確認を実施②
15回	修得確認振り返り

	授 業 内 容
16回	跳び箱運動開脚とびの安全管理・補助法について①
17回	跳び箱開脚とびの安全管理・補助法について①
18回	跳び箱開脚とびの安全管理・補助法について②
19回	なわ跳び運動の自己の技術について確認
20回	短なわを用いた遊びの指導・補助法について
21回	長なわを用いた遊びの指導・補助法について
22回	ここまで行った補助法・幫助法の修得確認を実施①
23回	ここまで行った補助法・幫助法の修得確認を実施②
24回	サーキット遊びの内容と安全管理、指導法について
25回	ボール遊びの導入法・安全管理、指導法について①
26回	ボール遊びの導入法・安全管理、指導法について②
27回	集団で行われる運動遊びの内容と指導法について
28回	運動遊びの指導案の作成について
29回	運動遊びの発表（模擬保育）①
30回	運動遊びの発表（模擬保育）②

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導Ⅱ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) ・保育実習Ⅰの評価や教員の指導を基に、実習Ⅱでの課題を明確にし、具体的な準備を行う。 実習終了後は、課題に対しての省察を行い、今後の学習につなげる。 ・実習や既習の教科目を踏まえた保育の改善を踏まえ保育の実践力を習得する。保育の観察や記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、事例や実践を通して理解する。					
(学習目標) ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。また、保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
評価方法・基準					
出席状況、授業態度、記録提出などを総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	保育実習Ⅱ（保育所）の目的と課題①
3回	保育実習Ⅱ（保育所）の目的と課題②
4回	保育の知識・技術を活かした保育実践①
5回	保育の知識・技術を活かした保育実践②
6回	保育の知識・技術を活かした保育実践③
7回	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善①
8回	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善②
9回	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善③
10回	保育士の専門性と職業倫理①
11回	保育士の専門性と職業倫理②
12回	保育士の専門性と職業倫理③
13回	事後指導・まとめ
14回	
15回	

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導Ⅲ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 保育実習Ⅰの評価や教員の指導を基に、実習Ⅱ・Ⅲでの課題を明確にし、具体的な準備を行う。実習終了後は課題に対しての省察を行い、今後の学習につなげる。 2. 実習や既習の教科目を踏まえた保育の改善を踏まえ保育の実践力を習得する。保育の観察や記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、事例や実践を通して理解する。					
(学習目標)					
1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。また、保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
評価方法・基準					
・実習日誌の記述内容（25％）、実習先による評価（25％）、実習に必要な課題や提出物（25％）、実習の振り返り（25％）					
履修上の注意点					
教科書					
「実習日誌の書き方」「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」					
参考書					
「保育所保育指針」					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション・施設実習の目的
2回	児童福祉施設の種類・保育士の役割
3回	施設理解・施設で働く専門職の理解1
4回	施設理解・施設で働く専門職の理解2
5回	施設理解・施設で働く専門職の理解3
6回	福祉施設での実習の視点について
7回	自己課題
8回	実習日誌における記録および評価
9回	支援計画の理解・家族支援
10回	実習振り返り
11回	自己評価
12回	実習報告会準備
13回	実習報告会
14回	実習事例から学ぶ
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
社会福祉施設経営と管理			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 社会福祉施設に特質と理念及び仕組み、経営を多角的な視点から考察し理解することをねらいとする。社会福祉施設における運営と行政機関との関わり等事例を交えながら学び、現場での実践に対応できる力を養う。					
(学習目標) 社会福祉施設の管理・運営の基本について理解する。 社会福祉施設の制度や概要、経営について理解する。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性、試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
適宜、参考資料を配布する。					

	授 業 内 容
1回	社会福祉施設の経営①
2回	社会福祉施設の経営②
3回	社会福祉施設の経営③
4回	社会福祉施設の経営④
5回	社会福祉施設の経営⑤
6回	社会福祉施設の経営⑥
7回	社会福祉施設の管理・運営①
8回	社会福祉施設の管理・運営②
9回	社会福祉施設の管理・運営③
10回	社会福祉施設の管理・運営④
11回	社会福祉施設の管理・運営⑤
12回	社会福祉施設の管理・運営⑥
13回	社会福祉施設の管理・運営⑦
14回	社会福祉施設の管理・運営⑧
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名		単位		担当教員名	
メンタルヘルス		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
本科目では、こころの健康の問題について、精神医学（病気）、臨床心理学（個人）、社会心理学（対人関係）などをベースとしたメンタルヘルスの知識を習得すると共に、メンタルヘルスにかかる社会保障制度を学ぶことで、実践的なメンタルヘルスの対応と支援スキルを身につける。					
(学習目標)					
- こころの病気について基礎的な知識を身につける。 - メンタルヘルスの予防対策について考えることができる。 - こころの病気になった場合の対応・支援方法について考えることができる。 - こころの病気になった場合の社会保障制度の知識を身につける。					
評価方法・基準					
- 出席等の授業姿勢 - リアクションペーパー - グループワーク発表内容					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	メンタルヘルスの概要
2回	メンタルヘルスマネジメント
3回	メンタルヘルス予防
4回	メンタルヘルス不調①（主な症状・病気）
5回	メンタルヘルス不調②（会社制度）
6回	メンタルヘルス不調③（社会保障制度）
7回	メンタルヘルス不調④（労働法関連）
8回	メンタルヘルス不調⑤（まとめ）
9回	個人のメンタルヘルス（精神医学・臨床心理）
10回	対人関係のメンタルヘルス（社会心理）
11回	経済・金銭問題がメンタルヘルスに与える影響①
12回	経済・金銭問題がメンタルヘルスに与える影響②
13回	メンタルヘルスと幸福学（ハーバード大学の幸福学研究）
14回	グループワーク（ケーススタディ）
15回	グループワークの発表・まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
キャリアプランニングⅡ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 保育士としての仕事、就業する職場について理解を深める。保育業界ならびに一般社会で活躍する人材となるために必要なスキルを学ぶ。また、今後の就職活動に備え心得ておくべき知識等を学ぶ。					
(学習目標) 保育者として必要な「職業観」を身に付け、働き続けるためのキャリアパスを描く。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
必要に応じて資料を配布することもある。					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	私のキャリア
3回	保育園について①
4回	保育園について②
5回	児童発達支援施設等について①
6回	児童発達支援施設等について②
7回	就労施設について①
8回	就労施設について②
9回	求人票について①
10回	求人票について②
11回	履歴書について①
12回	履歴書について②
13回	面接について①
14回	面接について②
15回	まとめ

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
療育総論			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ) 「療育」とは、発達障害やその他の発達上の課題を持つ子どもたちの成長を支援するために、専門的な教育や療法的アプローチを用いる取り組みである。保育士が療育を学ぶことにより、保育や療育の現場で出会う発達に課題を持つ子どもたち一人ひとりの特性やニーズを的確に把握し、適切な支援を提供することが可能になる。本授業では科学的に効果が実証された支援手法の習得を助け、保育士の専門性の向上と、より質の高いサービスを提供できる力の醸成を図る。					
(学習目標) ・応用行動分析（ABA）の基本原理や概念を理解し、現場での介入に応用できる。 ・TEACCHの枠組みや環境調整の手法を把握し、子どもの発達段階に合わせた支援環境を整備できる。 ・絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS）の導入方法や評価手法を習得し、効果的なコミュニケーション支援が実践できる。					
評価方法・基準					
・授業への出席（30%） ・授業内ワーク（20%） ・試験（50%）					
履修上の注意点					
特になし					
教科書					
使用しない					
参考書					
・適宜補足資料を配付する。					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーションと療育の全体像：授業の目的・進行スケジュールの説明。療育の意義と背景、対象となる子どもたちの特性についての概要。
2回	応用行動分析（ABA）の基礎理論①：行動の基本原則（強化、消去、シェイピング）の理論的背景。ABAの歴史と発展の経緯。
3回	応用行動分析（ABA）の基礎理論②：具体的な評価手法と行動観察の方法。測定・記録の技法について。
4回	ABAの介入技法と実践①：強化と消去の手法の応用方法。行動変容プログラムの設計方法。
5回	ABAの介入技法と実践②：シェイピング、チェイニングなどの複合介入技法。ケーススタディを通じた個別支援計画作成の演習。
6回	支援現場における倫理と法的配慮：支援活動に伴う倫理的問題、プライバシー保護、インフォームドコンセントの重要性。
7回	TEACCHアプローチの概要と基礎理論：TEACCHの歴史、基本理念、環境構成の重要性。構造化支援の考え方とその効果。
8回	TEACCHによる環境調整と日課表作成：日常生活における環境整備の手法。視覚的支援ツールやスケジュール管理の具体例。
9回	TEACCHの応用と個別支援計画への統合：個々の子どもに合わせた環境調整と課題の構造化。
10回	PECSの基本理論と導入のステップ：PECSの目的と基本概念、導入手順の説明。各フェーズの目標と進行の流れ。
11回	PECSを用いたコミュニケーション支援の実践：実際の場面でのPECSの使い方、評価方法の紹介。成功事例と課題の分析。
12回	PECSの応用と課題解決：PECSの応用技法（応用フェーズやトラブルシューティング）の詳細解説。実際の現場での課題に対する具体的解決策の検討。
13回	PECS実践：実際の絵カードを用いたグループ演習。
14回	振り返り：科目修了試験に向けて全体の要点を振り返る
15回	科目終了試験：資料持ち込み可、択一式の試験を実施する。

令和7年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
情報処理応用		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) ・Microsoft Office 操作の高度な操作技術を身につける。 ・Microsoft Office の多様機能を活用し、実践的かつ効果的な資料やデータを作成できるようにする。					
(学習目標) ・Word を活用して「おたより、園だより、イラスト」を効率よく作成する。 ・Excel を活用して高度な数式、グラフ、表作成を学ぶ。 ・PowerPoint を活用して「園のプレゼンテーション」の資料を作成する。 また、ビデオ挿入・オーディオ挿入、パスワードの設定を学ぶ。 ・PowerPoint を活用してチラシ、パンフレットなどを作成する。					
評価方法・基準					
出席・授業態度：30% 作成課題：70%					
履修上の注意点					
毎回USB メモリを持参すること					
教科書					
教科書なし 適宜プリント配布					
参考書					
なし					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション 入力練習（ページ設定、オプション設定、固定値）
2回	Word 演習① PDFファイルの編集・保存、ファイルまたは外部データからテキスト挿入 脚注（文末脚注、プロパティ変更） 表やリストの作成 2進数と10進数
3回	Word 演習② ヘッダー/フッター（奇数と偶数ページ設定など）、ページ背景書式（透かしなど） 図形描画（テキストボックス、ワードアート、SmartArtの活用）
4回	Word 演習③ 校閲（スペルチェックと文章校正、文字カウント） 「園だより」の作成
5回	Word 課題作成 「忘年会」などのお知らせ冊子作り（袋とじ印刷）
6回	Excel 演習〔1年次の復習〕 基本関数（SUM、AVERAGE、COUNT、MAX、MIN関数） 基本操舵（オートフィルオプション、罫線、計算）
7回	Excel 演習〔応用操作①〕 フィルター（並べ替え、抽出） ピボットテーブル・グラフ スライサーを使用してピボットテーブルをフィルター処理
8回	Excel 演習〔応用関数①〕 日付関数（TODAY、NOW、DATESTRING） 文字列操作関数（CONCAT、TEXT、SUBSTITUTE）
9回	Excel 演習〔応用関数②〕 情報関数（PHONETIC） 統計関数（RANK.EQ、RANK.AVE、MODE.SNGL、COUNTIF） 文字列操作関数（REPT） 検索行列関数（ROW） 論理関数（IF）
10回	Excel 演習〔応用関数③〕 数学/▽関数（SUMIF、ROUNDUP、ROUNDDOWN） 検索/行列関数（VLOOKUP、XLOOKUP） 関数のネスト
11回	Excel 演習〔応用操作②〕 検索・置換、貼り付け（ワイルドカードや特殊文字使用） 高度なグラフ（じょうご、ツリーマップ、サンバースト、ヒストグラムなど）
12回	PowerPoint 演習① 背景の削除、画像のトリミング、ビデオ挿入・再生、オーディオ挿入 ノートの入力、配布資料の印刷形式 図形内にイラスト挿入、パスワード設定/解除
13回	PowerPoint 演習② 「園」のプレゼンテーション資料の作成
14回	PowerPoint 演習③ PowerPointでポスター、チラシを作成する（デザイン、デザイナーの活用）
15回	PowerPoint 演習④ <まとめ> スライドに音声録画、ビデオ作成する（ファイル保存時に容量圧縮）

令和7年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
幼児体育Ⅱ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育現場では日常的に子どもたちに身体を使った運動や遊びが必要とされます。 様々な運動や遊びを通して、子どもの運動遊びの必要性を理解し、安全に効果的に指導できる ような力を身に付けましょう。					
(学習目標) ・「表現運動遊び」を楽しく実践する技能と指導法を身につける。 ・子どもの発育・発達に応じた運動遊びの展開方法について理解する。 ・様々な運動遊びの援助法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。					
評価方法・基準					
授業に参加する学習態度、積極性を踏まえ、実技テストおよび出席状況など総合的に評価する。					
履修上の注意点					
・実技です。運動に適した動きやすい服装、髪型、靴で参加のこと。 ・水分補給用の飲み物、筆記具を持参する。 ・準備、片付けは協力して行い、遊具の安全管理や環境設定に必要な知識の修得も図る。					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション、授業の内容及び進め方について
2回	集団遊びと伝承遊び
3回	表現リズム遊び①学ぶ
4回	表現リズム遊び②考案
5回	表現リズム遊び③発表
6回	バルーン遊び①学ぶ
7回	バルーン遊び②考案
8回	バルーン遊び③発表
9回	表現遊び 組体操①学ぶ
10回	表現遊び 組体操②考案、発表
11回	ここまでの総まとめ 運動会（発表会）の企画と立案①
12回	ここまでの総まとめ 運動会（発表会）の企画と立案②
13回	運動会（発表会）の発表①
14回	運動会（発表会）の発表②
15回	運動遊びの発表（模擬保育）

令和7年度シラバス

科目名		単位		担当教員名	
ピアノB		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 楽譜の音符とコードネームを理解する。 2. 臨時記号やリピート記号等、楽曲を通して復習する。					
(学習目標)					
1. 弾んだリズムを正しく弾こう。 2. 弾き歌いにも慣れよう。					
評価方法・基準					
・音符、指使い、リズム、テンポ等、基礎的な事が出来ているか。 ・簡単な（レベル1）のアレンジした楽譜も用意する。					
履修上の注意点					
・ゆっくりのテンポでも良いので次の小節に移る時等、間があかないように練習する。					
教科書					
楽譜を配布する。					
参考書					

	授 業 内 容
1回	課題曲「せんせいとおともだち」
2回	練習曲「おもちゃのチャチャチャ」
3回	「せんせいとおともだち」
4回	「おもちゃのチャチャチャ」
5回	「せんせいとおともだち」
6回	「おもちゃのチャチャチャ」
7回	「せんせいとおともだち」ピアノで個人レッスン
8回	練習曲「もりのくまさん」
9回	「せんせいとおともだち」ピアノで個人レッスン
10回	「もりのくまさん」
11回	「せんせいとおともだち」ピアノで個人レッスン
12回	「もりのくまさん」
13回	実技試験 課題曲「せんせいとおともだち」
14回	残り時間「ドレミのうた」
15回	「ドレミのうた」

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。